



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈祷会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈祷会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 叫

◎石叫■

「私たちの敵」

先週送られてきた『アシユラム』誌(四月号)の巻頭言を、いつも楽しみに読ませていただいている。そこでの僕の開眼経験だ。「神がわたしたちの見方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか」(ローマ八・31)という信仰の勝利を叫ぶパウロの凱歌がある。それに対する榎本恵師のコメントだ。

このみ言葉ほど、手垢にまみれた言葉はない。多くの戦争が、神の名によって、始められ、宗教者の多くが、自国の勝利のために、神に味方するように祈ったのだ。まだ記憶に新しい、ニューヨークでの同時多発テロ事件に端を発するイラク戦争でも、多くのアメリカの教会は、それを正義の戦争と呼び、「神はわれらの側に」と祈った。しかし、私たちは単純に宗教にその原因を持ってゆくべきではない。その背景にあるもの、貧困や格差、そして民族主義や独善主義、そういったものが複雑に絡み合い、その極みに達した憎悪がテロ活動となって現れているからだ。今後も暴力の連鎖が起こらないように祈るばかりであるが、では、このパウロの言葉の真意はどこにあるのだろうか。この神を味方とすることによって、打ち勝たなければならぬ敵とは一体誰なのか。「ところがパウロは、自己を敵と捉えました。パウロがキリストの使徒として最も偉大であるゆえんは、徹底したキリスト理解です。キリストの愛の徹底ということですが。敵をも愛し、敵をも救う事は文字どおり徹底した事です。キリストの福音とはそういう出来事です」(北森嘉蔵著『ローマ書講話』より)。友よ、私たちが勝利すべき相手とは、十字架の死をもってまで、「汝の敵を愛せよ」と迫る愛の神に、敵対する私たち自身なのである。その私こそ打ち勝つていこうよ。

パウロは叫ぶ、「私はキリストと共に十字架につけられた。生きているのは。もはや、私ではない。キリストが、私のうち生きておられるのである」(ガラテヤ二・19、20)と。福音に生きるには自我を十字架につけなければ進めないとの意である。中国故事にも「山中の賊を破るは易く、心中の賊を破るは難し」とある。人の罪は古今東西変わらない。なればこそ、日々、自分と向き合うために、心の鑑である聖書に照らし合わせて読む必要がある。それによって軌道修正して、その日を始めることができるというものである。頑固な敵である自分が降参するためには、神の絶えざる愛の語りかけしかないではないか。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

